



⑩手向け水をささげ
ます⑪祭壇に死没
者名簿を奉納⑫こ
うべを垂れ黙とう。



①⑦小・中・高校生代表が「叫
魂」碑に折り鶴を献納②平和
への誓い③中川悠里さん(大
高2年)④岡村ころさん(大
竹中3年)⑤有馬実優さん(小
方小6年)⑥司会進行の大役
を務めた大竹高校の生徒⑦友
会の賀屋幸治会長の式辞。



8/6 平和を願い、ささげる祈り

広島に原子爆弾が投下されて81年を迎えたこの日、『大竹のヒロシマの日』として、『第44回原爆死没者追悼・平和祈念式典』が挙行されました。

式典は、参列者の平和の歌の合唱で幕を開け、献水、この1年に亡くなられた18柱の被爆者の名前が書き加えられた2597柱の死没者名簿の奉納と続きます。主催者を代表して、市原爆被害者友の会の賀屋幸治会長が「核兵器が再び使われないために、核兵器の恐ろしさや平和の大切さを世界へ訴え続けなければならない」と式辞を述べた後、8時15分を迎えます。サイレンが鳴り響き、参列者は黙とうをささげ、会場は厳かな空気に包まれました。

小方小、大竹中、大竹高校の児童・生徒による『平和への誓い』の発表があり、岡村ころさん(中3)は「今ある日々の幸せは当たり前ではない。今の日常に感謝し、平和のために自分自身に何ができるのかを問い続け、実践できることから積極的に行動していく」と誓いました。

その後、児童・生徒たちなどの折り鶴が『叫魂』碑に献納され、『大好き大竹応援大使』の二階堂和美さんの『伝える花』が流れる中、参列者の献花が続き、式典は幕を閉じました。

⑧大竹中吹奏楽部の演奏⑨黙とうする参列者。

イベントなどで撮影した写真は、「広報おたけ」、市ホームページ、市公式SNSや市の刊行物で使用するほか、マスメディアなどに提供することがあります。